平成31年度
取組予定

地域の主伐・再造林等の森林整備コスト縮減に向けて

～工程管理システム、コンテナ苗と一貫作業システムの普及～

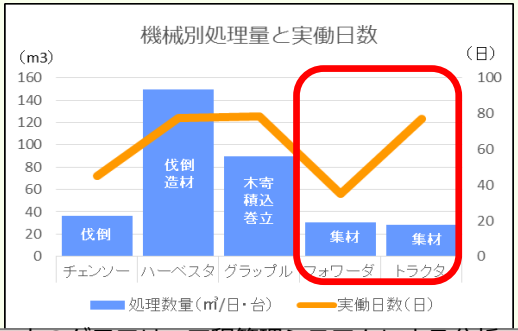
網走中部森林管理署

【現状】
当管内の民有林は、主伐期を迎え伐採が進む一方、造林未済地がH30末現在で約3,700ha（網走東部流域）あり、今後も増加が想定されます。

【問題】
主伐・再造林に要するコスト負担が造林未済地の増加に繋がっており、また、事業を実施する事業体等の高齢化と人手不足、苗木不足が懸念されます。

【課題】
主伐・再造林のコスト縮減と苗木の生産の省力化、人材確保・育成が求められています。

【これまでの成果・取組】
工程管理システムの分析結果をデータ提供事業体へフィードバックすることにより、フォワーダの追加導入に繋がりました。
北見市、北海道との連携により中部署管内の自治体林務担当者、森林組合へコンテナ苗と一貫作業システムによる森林整備の低コスト化へ向けた勉強会を実施しました。



上のグラフは、工程管理システムによる分析一部抜粋で、注目は赤の囲みのトラクタとフォワーダの違いです。

【目標】

木材生産性向上と主伐・再造林のコスト縮減

【令和元年度の取組予定】

1．工程管理システムの活用について
工程管理システムの改善と事業実行体制の変更による効果を確認するため、次の項目に取り組みます。

・引き続き、林業事業体へデータ数確保のための試用とデータ提供を依頼します。
・得られたデータを分析して、結果を提供元の林業事業体へフィードバックします。
・昨年度データを提供頂いた事業体について、今年度フォワーダを追加導入した効果を検証するため、再度、工程管理システムの試用を依頼すると共に作業の現状について把握し、必要な助言等を行うため現場指導を実施します。

フォワーダ集材の様子

2．コンテナ苗と一貫作業システムの普及について
引き続き、地域でのコンテナ苗の活用と、伐採と造林の一貫作業システムの導入を推進するため、次の項目に取り組みます。

・昨年実施したアンケートや、寄せられた意見等を反映した内容による現地検討会または勉強会等を開催します。
・参加者にアンケート等を実施し、理解度や意見、疑問点等の聴取を行い、今後の取組に反映させます。

昨年の現地検討会の様子

【今後の取組】
工程管理システムはデータ収集のため引き続き取組を続けるとともに、普及に向けてデータ活用方法を検討していきます。
コンテナ苗と一貫作業システムの普及については、実施する検討会等の参加者の意見を踏まえた内容のものとしていきます。
人材育成については地元と一体となった取組が出来るよう、各種会議等の場を通じ、引き続き情報共有を行います。

令和元年度
取組結果

「地域の主伐・再造林等の森林整備コスト縮減に向けて」

～工程管理システム、コンテナ苗と一貫作業システムの普及～

網走中部森林管理署

目　標	木材生産性向上と主伐･再造林のコスト縮減

令和元年度の取組	取組の内容	取組の成果
1:工程管理システムの活用 伐木集材作業の各工程における作業効率の現状を「工程管理システム」を用いて分析し、見える化し、その結果を分析と必要な効率化の検討を用いることで作業コストの縮減を推進する。	○昨年のデータ提供元事業体が新たにグラップル付きフォワーダを導入したため、作業全体の改善効果について対比･分析するため、工程管理システムの試用を再度依頼。 ○昨年度の分析結果について現場責任者等に対し、改善策、問題点の聞き取り等、現地で具体的な指導を実施。（令和2年2月14日実施） 	○事業体に対して工程管理システムによるデータ及び分析結果を説明し効率化の必要性を理解してもらうとともに、「今後はより効率的と考える作業仕組みを検討し、山主に提案していきたい」との改善に向けた回答を得ることができた。
2:コンテナ苗と一貫作業システムの普及 伐木造材から植付けまで一体で行い、作業の効率化によるコスト縮減を目的とした一貫作業システムの導入と、それに必要なコンテナ苗の普及を推進する。	○昨年の検討会時のアンケートに基づき、作業の低コスト化に不可欠な路網について、図上での選定を行う座学と、選定結果について現地での検証意見交換を行う検討会を実施。 ○終了後、更なるニーズ把握のため、参加者に対しアンケートを実施。 	○昨年度実施したコンテナ苗と一貫作業システムの勉強会に続き、具体の作業における適切な路網選定の重要性について現地検証と意見交換で理解を深めていただいた。 オホーツク管内における林業の問題解決への方法としてコンテナ苗と一貫作業システムが、有効であることの理解が深まり、今後の作業方法の選択肢としての重要度が高まった。

目標に対する達成度	次年度の取組予定
○工程管理システムは試用段階だが、事業体が今回の分析結果により自らの作業システムの問題点、改善点について、具体的に検討するきっかけになったと考える。 ○現地検討会･勉強会を取り組む中で、一貫作業とコンテナ苗の普及が地域林業の低コスト化に必要な手段であることについて、更に理解を深めてもらうことができた。	○コンテナ苗と一貫作業システムの普及については、アンケート結果に加え、今後も実行管理推進チーム等会議等の場を通じてニーズに応じた内容で、引き続き現地検討会･勉強会の開催等により地域に定着する作業方法となるよう取り組む。 ○今年度実施した置戸町の木材の有利販売に向けた支援実績をベースに、近隣市町の林務担当職員（特に初任者）に対し、森林の見方、樹種の判別、有利販売方法等、当署職員のOJTと併せて、合同で現地検討会を実施していく。